

政策整理番号 22

評価シート(A)

対象年度	H16	作成部課室	教育庁総務課	関係部課室	教育庁高校教育課, 義務教育課, 障害児教育室, 生涯学習課, 総務部私学文書課, 県立大学室
------	-----	-------	--------	-------	---

A - 1 - 1 政策と施策の関係・施策の体系:規則 § 6 1号関連

政策番号 3-7-1 政策名 個性・創造性・豊かな心を培う教育の推進

政策概要 限りない可能性を持つすべての子どもの個性が尊重され、21世紀を切り拓く人材として創造性に富んだ豊かな心が育まれるよう、特色ある教育を目指します。

施策番号	施策名 施策概要	政策評価指標
1	特色ある学校づくり 児童生徒の多様な個性や特性に対応し、学校選択の幅を広げるために、特色のある学校・学科を増やしていきます。	・総合学科等の新しいタイプの県立学校数 ・児童生徒の学習意欲・学習理解度(小・中学校) ・生徒の学習意欲・進学達成度(高等学校) ・外部評価実施学校(小・中・高)の割合
2	不登校児童生徒等への支援 小・中・高校生が不登校、ひきこもり、中途退学などに陥らないようにその防止を図ったり、そのような子どもたちの立ち直りや保護者を支える環境づくりを目指します。	・不登校児童生徒の在籍者比率(出現率)
3	障害児教育の充実 どのような障害があっても、一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育が受けられるようにするとともに、健常児や地域の人々との交流や理解が深まる環境づくりを目指します。	・知的障害養護学校における通学距離が20km以内の児童生徒の割合
4	私立学校教育の振興 私立学校のもつ独自の校風と建学の精神で、魅力ある学校教育がより一層推し進められるよう私立学校教育の振興を図ります。	
5	大学等高等教育の充実 高度な専門知識や技術を持つ人材の育成により、地域社会や地域経済の発展、学術研究の振興を図るため、大学等の高等教育の充実を進めます。	・県立大学卒業生の就職率
6	地域に開かれた学校づくり 社会の変化に柔軟に対応できる人材を育成するため、地域の優れた知識や技能を持った社会人を学校に招くなど、地域に開かれた学校づくりを目指します。	・全授業日数中、社会人講師等が教えている日数の割合 ・10日以上授業公開日を設定している学校の割合
7	地域社会と学校教育との協働の推進 地域と学校がともに手をたずさえ子どもたちの教育の充実に取り組むことができるよう、児童生徒の体験学習(職場体験、農業体験、保育体験、福祉体験等)や現地学習(施設見学、自然観察等)など、様々なふれあいの場の展開に必要な環境を整えます。	・小・中学校における「学社連携・融合事業」の実施割合

A - 1 - 2 県民満足度(政策)の推移:規則 § 6 1号関連

(単位:点)

	第1回(H13)	第2回(H14)	第3回(H15)	第4回(H16)	
重視度(中央値) A	80	80	80	80	
満足度(中央値) B	60	60	60	60	
かい離 A-B 【かい離度】	20 【高い】	20 【高い】	20 【高い】	20 【高い】	

かい離:極めて高い(40点以上),非常に高い(30点以上~40点未満),高い(20点以上~30点未満),中(10点以上~20点未満),低い(10点未満)

A - 1 施策群設定の妥当性:規則 § 6 1号

適切 概ね適切 課題有

A-1-1
【政策目的に沿った施策か】 適切
・本政策は、主に学校教育の充実を目指したものであり、創造性に富んだ個性豊かな人材を育成する上で、本政策を構成する7施策はどれも必要不可欠なものである。
・本政策の実効ある推進のためには、施策間の有機的な連携が必要であり、これら7つの施策項目は、政策実現という大局に立って、常に意識すべき重要な構成要素である。

【施策の重複・矛盾の有無】 適切
・昨年度、行政評価委員会政策評価部会から「従来の公教育完結型を開いて... (中略) ...地域等との連携協力交流をいっそう進めてほしい。」との意見をいただいたことを受け、平成17年度から新施策「地域社会と学校教育との協働の推進」を新設し、これまで以上に学校と地域社会との連携の強化に努めることとしたが、これによって従来の施策体系で不明瞭だったものが明瞭化されたと考え。

A-1-2, A-1-3
【県民満足度・社会経済情勢から見て必要か】 適切
・本政策は、重視度が80と高いのに対して、満足度は60にとどまり、かい離度が20と依然として高くなっている。近年は、教育基本法改正の動きや義務教育費国庫負担問題などを契機として、教育に対する国民の関心は非常に高まっており、かい離の高さは県民の期待の表れと受け止めたい。施策単位で見てもすべての施策がほぼ20以上のかい離度を示しており、すべての施策の必要性を「大」とした。

A - 1 - 3 一般県民満足度の推移と社会経済情勢(施策毎):規則 § 6 1号関連

施策番号	一般県民満足度調査結果(施策)			社会経済情勢に適合した施策か	必要性総括	
	優先度(直近の3回)	県民が必要と感じているか()				
1	第4回 20.5%	2位	・本施策の優先度は7施策中2位である。 ・本施策のかい離は20点と高い。 【結論】 必要性: かなり感じている	・多様な生徒に対応する学校の必要性、特色ある主体的な学校づくり、学校評価の必要性等は、すべて社会情勢の流れの方向性と一致するものであり、時宜を得たものである。 ・近年の教育現場における改革の動きは国の動きを先取りしたものになっており、自らの創意工夫に立脚した本施策は、現場からの教育改革に直結する、時代に即したものである。	大	
	第3回 28.8%	1位				
	第2回 28.2%	1位				
2	14.5%	4位	・本施策の優先度は7施策中4位である。 ・本施策のかい離は30点と非常に高い。 【結論】 必要性: かなり感じている		・平成16年8月に文部科学省から公表された平成15年度の本県の不登校児童生徒の出現率を見ると、小学校では0.29%(16位)と前年度の0.33%(22位)に比べ改善がみられるものの、中学校では2.75%(30位)と前年度の2.70%(25位)に比べ増加している。増加傾向は高校でも顕著で、高校では2.60%と前年度やや改善が見られた1.97%から急増している。児童生徒が生き生きと過ごせる快適な学校の環境づくりは依然として重要な課題であると言える。	大
	21.0%	3位				
	20.6%	3位				
3	7.2%	5位	・本施策の優先度は7施策中5位である。 ・本施策のかい離は19.5点と中程度である。 【結論】 必要性: あまり感じていない			・1994年にユネスコの「サマラン宣言」において、「障害の有無によらず、一人ひとりの特別な教育的ニーズに応じて教育を行うべきである。」という考え方が示され、国においても、平成15年3月に、この考え方に沿って「特殊教育」から「特別支援教育」への転換を図るという方向性が示された。 ・本県では「共に学ぶ教育」を「みやざらしい教育」の大きな柱の1つに据えており、本施策は極めて重要である。
	9.1%	4位				
	10.0%	4位				
4	1.9%	7位	・本施策の優先度は7施策中7位である。 ・本施策のかい離は20点と高い。 【結論】 必要性: 比較的感じていない	・社会情勢の変化を敏感に受け止め、共学化や学科の新設等、先導的な役割を果たし、公教育の発展に寄与してきた。しかし、公立に比べ私立は保護者の負担に依存する部分は高く、公立との授業料の格差は著しい。また、本県の私立への助成は、全国下位にあり、学校及び保護者団体から充実・強化が強く望まれている。		
	3.0%	6位				
	2.4%	7位				
5	4.3%	6位	・本施策の優先度は7施策中6位である。 ・本施策のかい離は30点と非常に高い。 【結論】 必要性: ある程度感じている		・全国の大卒者の就職率は緩やかな景気の回復を背景に年々増加している。 ・県立大学卒業生の就職率も年々増加しているものの平成22年度の目標値にはまだ達していないことから、今後とも本施策の推進が必要である。	
	7.4%	5位				
	8.4%	5位				
6	14.8%	3位	・本施策の優先度は7施策中3位である。 ・本施策のかい離は25点と高い。 【結論】 必要性: かなり感じている			・学校の外部評価(H16実施済みは小87.5%,中83.8%,高100%)や学校評議員制度の導入(同小73.7%,中76.8%,高100%)、社会人講師、学校支援ボランティアなどの活用など、学校を地域に開き取り組みは次第に浸透しつつある。今後はホームページを使った情報公開や学校自由見学など授業の公開(年10日以上の授業公開の実施は小53.8%,中34.0%,高56.8%)に向けた取り組みなどにも一層力を入れる必要がある。
	28.3%	2位				
	27.1%	2位				
7	34.3%	1位	・本施策の優先度は7施策中1位である。 ・本施策のかい離は20点と高い。 【結論】 必要性: かなり感じている	・都市化・核家族化そして少子化・高齢化などによって地域社会の環境は大きく変化してきており、かつて子どもの育成に大きな役割を果たしていた地域の教育力の低下が指摘されて久しい。子どもの健全な育成にとって学校、家庭、地域社会の協働は非常に重要であり、施策としての意識的な働きかけが必要である。		
	-	-				
	-	-				

必要性のランク【結論】: 非常に感じている > かなり感じている > ある程度感じている > 比較的感じていない > あまり感じていない

A - 2 政策評価指標群の妥当性:規則 § 6 2号

適切 概ね適切 課題有

【施策の有効性を評価する上で適切か】 適切
 ・本政策においては、7施策に対して10の政策評価指標を設定しており、それぞれ各施策の有効性を評価する上で適切と考える。
 【重視すべき施策に指標が設定されているか】 概ね適切
 ・政策評価指標は施策のある側面を映し出すものとも言えることから、特に重要な施策については政策評価指標を複数設定し、できる限り多角的に評価して施策の全体像を映し出すことに努めており、この点では適切な対応と考える。「要検討」とした3指標についても、他との整合性や、多角的な評価又はより全体的な姿を反映した評価という見地から、より良い指標の設定を目指して改善を図ろうとするものであり、今後もこうした改善への努力は惜しまない方針である。

A - 3 施策群の有効性:規則 § 6 3号

有効 概ね有効 課題有

評価シート(B) A-3-1「施策の有効性」から

視点	政策全体	施策1	施策2	施策3	施策5	施策6
政策評価指標達成度	概ね有効	有効	概ね有効	課題有り	有効	有効
県民満足度	概ね有効	概ね有効	課題有り	有効	有効	有効
社会経済情勢	有効	有効	概ね有効	有効	有効	-
全体	概ね有効	有効	概ね有効	概ね有効	有効	有効

A 政策評価(総括):規則 § 6

適切 概ね適切 課題有

・当該政策に関し、施策群設定の妥当性(A-1)、政策評価指標群の妥当性(A-2)、施策群の有効性(A-3)を総合的に検証した結果、本政策の評価は「概ね適切」と考える。

対象年度 H16

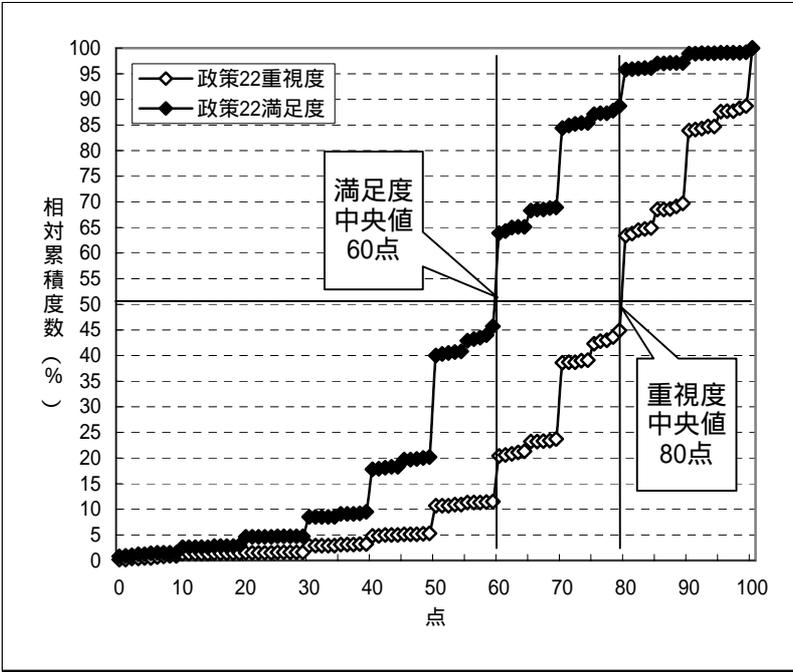
政策番号 3-7-1

政策名 個性・創造性・豊かな心を培う教育の推進

(1) 一般県民満足度調査結果

高関心度 73.2

高認知度 58.7

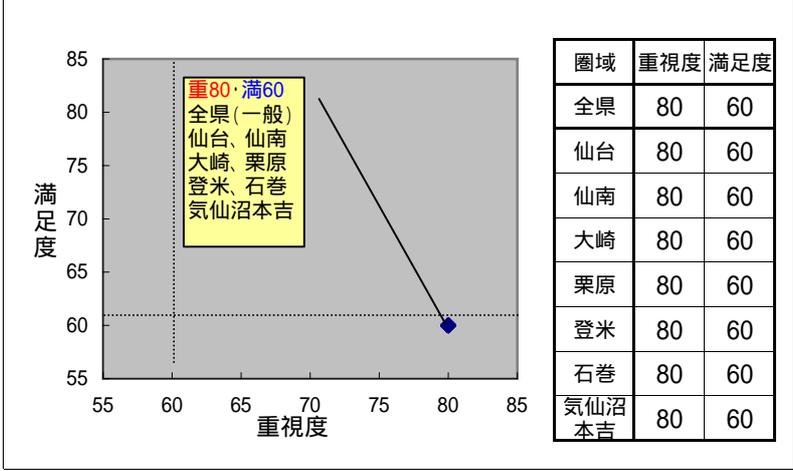


高関心度
「政策」の内容に対する関心の高さを示す数値であり、満足度調査の関心度に関する設問中「関心があった」、「ある程度関心があった」を選択した回答者の全回答者に対する割合

高認知度
「政策」の内容について知っている度合いの高さを示す数値であり、満足度調査の認知度に関する設問中「知っていた」、「ある程度知っていた」を選択した回答者の全回答者に対する割合

基本統計量						
全県						
項目	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
中央値	80	80	85	60	60	60
第1四分位	-	-	-	50	50	50
第3四分位	-	-	-	70	70	70
四分偏差	-	-	-	10	10	10

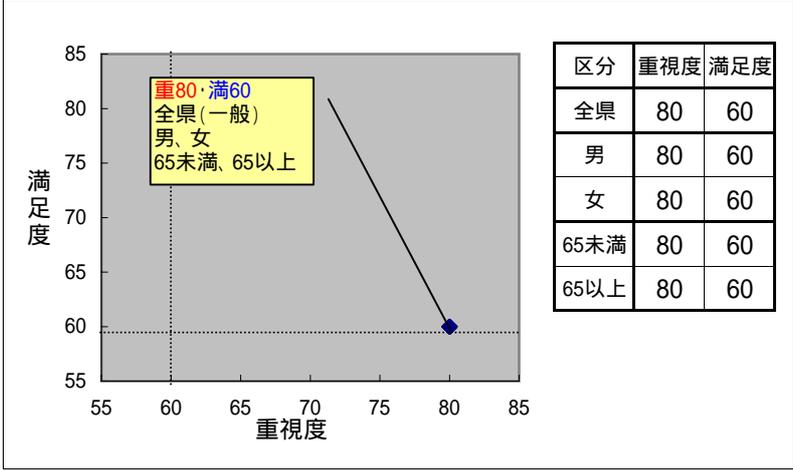
散布図



圏域別中央値(一般、市町村のみ)

圏域	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
仙台	80	80	-	60	60	-
仙南	80	80	-	60	60	-
大崎	80	80	-	60	60	-
栗原	80	80	-	60	60	-
登米	80	80	-	60	60	-
石巻	80	80	-	60	60	-
気仙沼 本吉	80	80	-	60	60	-

散布図



男女別・年代別中央値(一般のみ)

区分	重視度			満足度		
	一般	市町村	学識者	一般	市町村	学識者
男	80	-	-	60	-	-
女	80	-	-	60	-	-
65未満	80	-	-	60	-	-
65以上	80	-	-	60	-	-

対象年度 H16

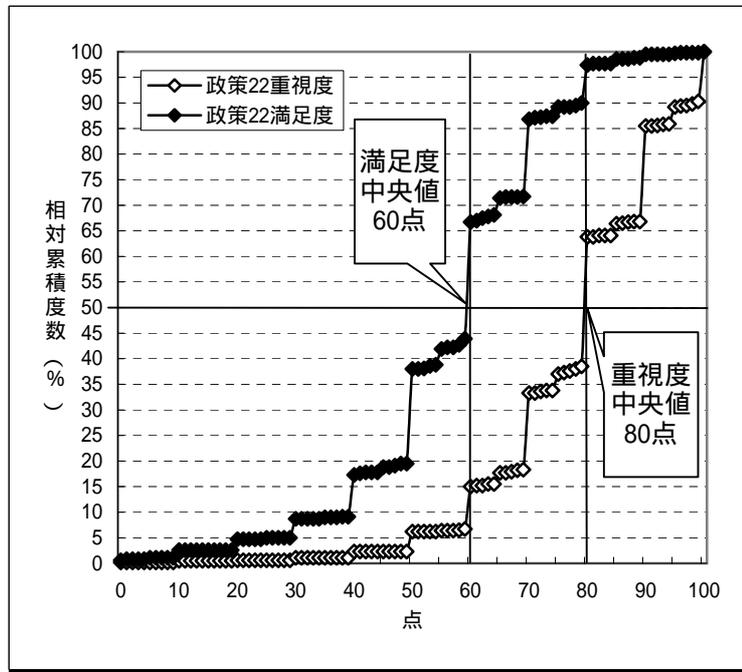
政策番号 3-7-1

政策名 個性・創造性・豊かな心を培う教育の推進

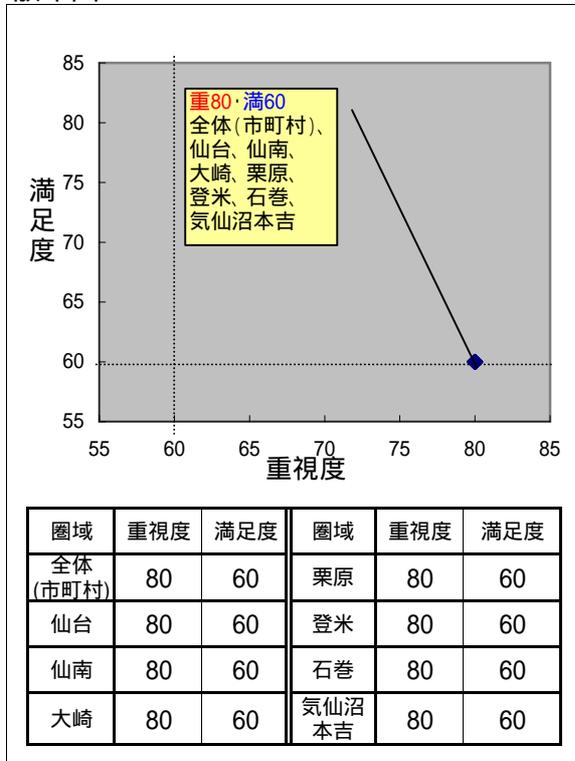
(2) 有識者(市町村) 県民満足度調査結果

高関心度 80.1

高認知度 74.6



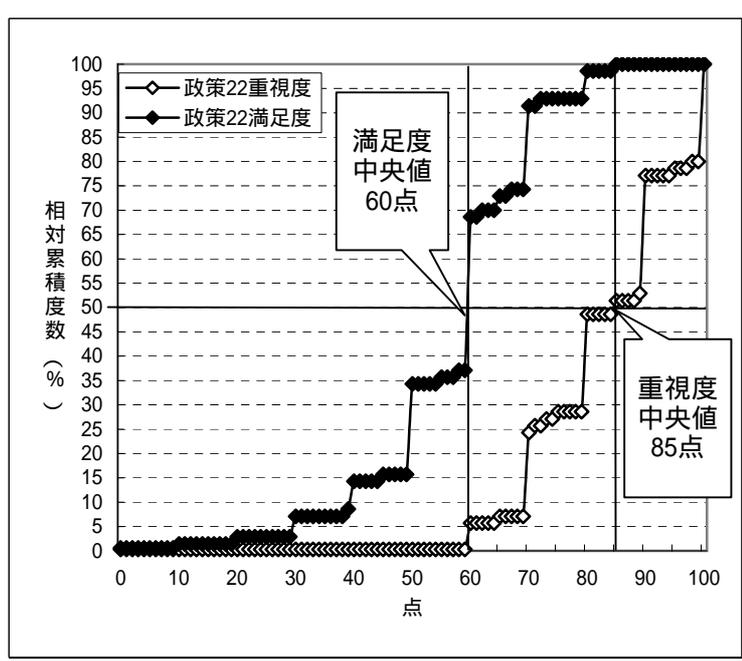
散布図



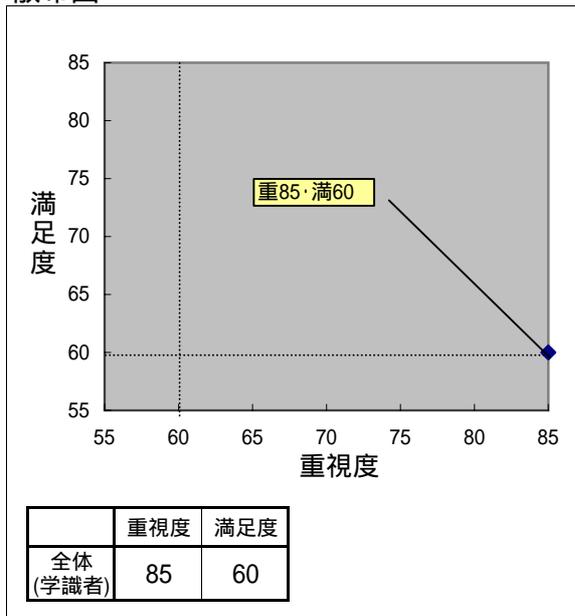
(3) 有識者(学識者) 県民満足度調査結果

高関心度 92.7

高認知度 81.4



散布図

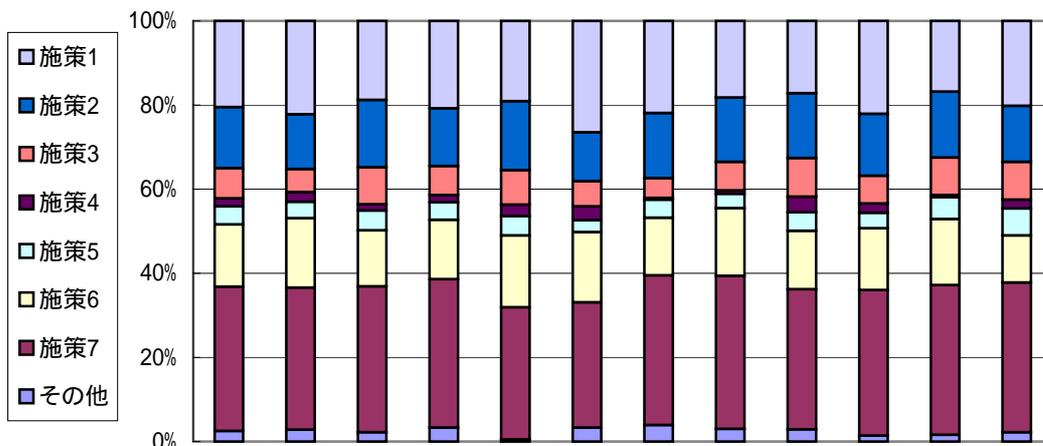


対象年度 H16

政策番号 2-7-1

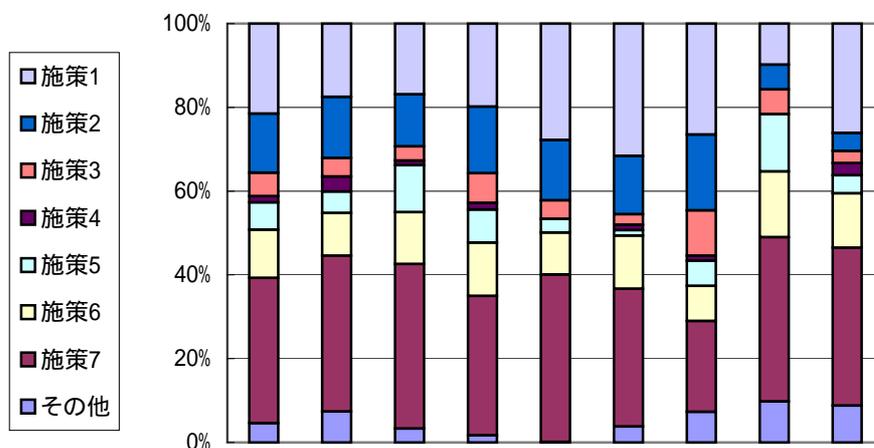
政策名 個性・創造性・豊かな心を培う教育の推進

(4) 一般県民満足度結果(施策別・優先度1位割合)



施策番号	施策名	全体	男	女	65未満	65以上	仙台	仙南	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼 本吉
施策1	特色ある学校づくり	20.5	22.2	18.8	20.8	19.1	26.5	21.9	18.2	17.2	22.1	16.8	20.2
施策2	不登校児童生徒等への支援	14.5	13.0	16.0	13.7	16.4	11.6	15.5	15.3	15.4	14.7	15.7	13.3
施策3	障害児教育の充実	7.2	5.5	8.8	6.9	8.2	6.0	4.7	6.8	9.2	6.6	8.9	9.0
施策4	私立学校教育の振興	1.9	2.3	1.5	1.7	2.7	3.3	0.4	0.8	3.7	2.2	0.5	2.1
施策5	大学等高等教育の充実	4.3	3.9	4.7	4.2	4.6	2.8	4.3	3.4	4.4	3.7	5.2	6.4
施策6	地域に開かれた学校づくり	14.8	16.5	13.3	14.1	17.1	16.7	13.7	16.1	13.9	14.7	15.7	11.2
施策7	地域社会と学校教育との協働の推進	34.3	33.8	34.7	35.3	31.4	29.8	35.6	36.4	33.3	34.6	35.6	35.6
	その他	2.5	2.8	2.2	3.3	0.5	3.3	3.9	3.0	2.9	1.4	1.6	2.2

(5) 有識者(市町村・学識者)県民満足度結果(施策別・優先度1位割合)



施策番号	施策名	市町村優先度								学識者 優先度
		全体	仙台	仙南	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼 本吉	
施策1	特色ある学校づくり	21.5	17.5	16.9	19.8	27.8	31.6	26.5	9.8	26.1
施策2	不登校児童生徒等への支援	14.1	14.6	12.4	15.9	14.4	13.9	18.1	5.9	4.3
施策3	障害児教育の充実	5.6	4.4	3.4	7.1	4.4	2.5	10.8	5.9	2.9
施策4	私立学校教育の振興	1.5	3.6	1.1	1.6	0.0	1.3	1.2	0.0	2.9
施策5	大学等高等教育の充実	6.5	5.1	11.2	7.9	3.3	1.3	6.0	13.7	4.3
施策6	地域に開かれた学校づくり	11.5	10.2	12.4	12.7	10.0	12.7	8.4	15.7	13.0
施策7	地域社会と学校教育との協働の推進	34.7	37.2	39.3	33.3	40.0	32.9	21.7	39.2	37.7
	その他	4.6	7.4	3.3	1.7	0.1	3.8	7.3	9.8	8.8